



白秋生誕の日を短歌で盛り上げよう

第53回北原白秋顕彰短歌大会

柳川が生んだ詩聖北原白秋。今年度から白秋生誕の日の1月25日に短歌大会を開催します。たくさんの作品の応募をお待ちしています。

●応募方法 自作で未発表の作品を1人1首。市生涯学習課で配布する規定の詠草用紙に作品と必要事項を記入して応募。詠草用紙は市公式サイトからも入手可

●出詠料 1000円（郵便局で定額小為替を購入し、詠草用紙と同封して送付）

●応募締切 11月30日（木）当日消印有効

●賞 選者の部（3人）と互選の部それぞれ天賞1首、地賞2首、人賞3首、佳作5首

●表彰 午後1時から伊藤一彦氏による講話、その後表彰



10月29日から11月5日まで作品を展示

市総合美術展出品作品募集

●部門 日本画、洋画、書、写真

●出品資格 高校生以上

●出品点数 各部門1人2点以内

●出品料 1部門につき1点目1000円（2点目無料）、高校生無料

●作品搬入 9月29日（金）、9月30日（土）午前10時～午後4時、市民文化会館（作品裏面右上に必ず作品票を貼り付けること）

※詳しくは、市公式サイトで確認してください。



ピースデーイベント こっぱり～の音楽会初の屋外開催

9月21日は停戦と非暴力を呼びかける国際平和の日、「ピースデー」。この日にちなんで平和を願うイベントを開催します。事前申し込み不要で、参加費は無料です。詳しくは市公式サイトを確認してください。

●日時 9月24日（日）午後4時～、雨天時は10月1日（日）に延期

●会場 新外町緑地広場（小野家屋敷跡）

●内容 ▷ピースデーの説明▷「ウィッシュツリー」ワークショップ=桜の木に参加者が平和への願いを書いた短冊を吊るす▷こっぱり～の音楽会=こっぱり～がピアノを、石井有紀子氏がバイオリンを奏でる演奏会

【問】市生涯学習課文化係（☎77・8836）



【写真2】左から並倉の北棟、中棟、南棟、洗い場（吉開家蔵）



【写真1】左から並倉の南棟・洗い場（吉開家蔵）



【写真3】現在の並倉と洗い場

鶴味噌の並倉は、連なるレンガ造りの壁が美しい、川下りの名所です。平成12年に国の登録有形文化財に、平成27年に国の名勝「水郷柳河」を構成する景観の一つに指定されました。明治時代に麹室として建設され、現在も冷蔵や温蔵室として使用されています。
鶴味噌創業者の吉開治吉は、当初藍染業を営んでいました。明治30（1897）年に味噌の製造販売を開始し、4年後に藍染業を廃業して味噌専業となります。その後、陸海軍や鉄道院、九州全域の三井鉱山の御用達となり、需要の高まりとともに製造場を広げていきました。
写真1は明治41年から43年頃に撮影されたものです。並倉で最初に建てられた南棟（明治39年造）と煙突（明治41年頃建造）が写っています。明治43年に建てられる中棟はまだありません。
当時の南棟はレンガ造りではなく土蔵造りで、掘割に面した外壁は防湿性に優れたなまこ壁です。右隣の建物は洗い場で、

古今並倉

市史編さん係 梅本 真央

汲水場の部分だけ軒を長く出しています。また、洗い場と南棟は護岸の石積みより奥に建てられ、水路沿いに人が立てるほどのスペースがあります。
明治43年に中棟、大正7（1918）年に北棟が完成すると、南棟も増改築され、現在とほぼ同じ姿になりました。
写真2は、北棟の完成後に撮影されたものです。すべての建物がレンガ壁となり、護岸の石積みの上に並んでいます。さらに、洗い場の軒も汲水場の軒と同じ長さになりえられました。汲水場には外部からの目隠しがされています。
写真3は、今年の8月に撮影したものです。中棟上部の板貼りと、中棟と南棟の間の屋根の形が変わり、中棟と北棟の間のレンガ壁にあった開口は、一部を窓として残し塞がれています。洗い場も、汲水場を閉じてレンガ壁になっています。
少しずつ手入れされながら、並倉は100年以上にわたり、柳川の代表的な景観として受け継がれています。

市史編集委員会では、数年後に写真を中心とした本を刊行する予定です。現在さまざまな写真や絵はがきなどを集めています。隔月1日号に、同委員会で集めた写真を紹介します。

【問】市生涯学習課市史編さん係（☎72・1275）

市史抄片別巻 vol.84

「思ひ出」写真館